

「東アジアの近代と

アメリカ留学」



東アジアにおける19世紀後半からの歴史を考えると、近代化を西洋化としてのみ捉えることは適切ではない。しかし、西洋文明との接触およびその受容が、東アジア各国の国家体制を変化させる大きな契機となったことは事実である。福沢諭吉の場合は留学ではないが、アメリカやヨーロッパを訪問し、西洋の文明を直接見聞したことが、その後の彼の思想や行動に大きな影響を与えた。

本シンポジウムでは、19世紀後半に日本、韓国、中国からアメリカに留学した人物を取り上げ、具体的事例から、留学を通じての西洋文明の受容について考察したい。彼らの動機や身分、何を学び、帰国後本国においていかなる役割を果たしたのか。日中韓の類似や相違だけでなく、留学先による差異や受け入れたアメリカ側の意図への検討も通じて、留学が東アジア圏の近代史に果たした役割について考えてみたい。

2017.10.20(金) / 21(土) | 入場無料・事前予約不要

慶應義塾大学 三田キャンパス 東館ホール (両日とも)



10月20日(金) 15:00 ~ 17:30

基調講演

Fernanda Helen Perrone 氏 (ラトガース大学准教授)

コメンテーター：阿部 珠理 氏 (立教大学名誉教授)



10月21日(土) 14:00 ~ 18:00

報告

高木 不二 氏 (大妻女子大学名誉教授)

崔 徳壽 氏 (高麗大学教授)

容 應英 氏 (亜細亜大学教授)

コメンテーター：西澤 直子 (慶應義塾福澤研究センター教授)

お問い合わせ

慶應義塾福澤研究センター | fmc@info.keio.ac.jp

03-5427-1604 (平日 9:00-16:30)